

松平家史料展示室企画展

# 由利公正と仲間たち

- 主催 福井市立郷土歴史博物館
- 会場 松平家史料展示室
- 会期 平成28年5月8日(日)  
～7月10日(日)
- 休館日 6月6日(月)、7日(火)、20日(月)

福井藩の財政改革などに手腕を発揮した後、新政府の財政担当者として紙幣を発行し、東京府知事を務めるなど、幕末～維新时期に広く活躍した由利公正（三岡石五郎・八郎）。近年新しい史料が発見されたり、福井県や福井市が大河ドラマの主人公として誘致を目指したりするなど注目されている人物です。本展では、藩主として由利が仕えた松平春嶽、師として大きな影響を受けた横井小楠、藩士として共に活動した橋本左内など、由利公正と関わった人たちを通して、その業績やエピソードを分かりやすく紹介します。



由利公正肖像写真  
（『由利公正伝』より）

## ●『由利公正伝』について

由利の子息であった三岡丈夫が著した伝記です。その中には由利自身が語った内容も含まれており、彼を取り巻く人々とのエピソードが本人の言葉で記されています。本展では『由利公正伝』からエピソードを引用して紹介しています（文章は適宜漢字と仮名づかいを直しています）。

## ●由利公正を取り巻く人々

**松平春嶽（福井藩主）** 由利を登用した。文久2年（1862）12月、由利は春嶽に従って上京し、幕府の政事総裁職としての活動を支えた。

【由利公正伝】わしは京都の御屋敷で君公（春嶽侯）のお帰りを待っていると、その日は大変にお帰りが遅いのみならず、お帰りになっても御機嫌が悪い。〔中略〕薩長征伐ということを江戸から言うてきた。〔中略、春嶽公は〕実にどうも大変なことだ、とひどく御心配なさる御様子。由利がいかにも大変なことをござるが、今そんなことをされては徳川三百年の礎を、自ら求めて亡ぼすようなもの、これは一つ御諫めになったがよろしかろうと申し上げたところが、公の仰せにはとくと杉浦〔幕府の大目付〕に申してくれということ。

**橋本左内（福井藩士）** 医家の出身ながら春嶽に用いられ、安政4年（1857）明道館学監同様心得となる。その後春嶽に近侍し、將軍継嗣問題などの解決のため活動した。由利は同年兵科掛を命ぜられ、明道館で修行することとなったが、それ以降二人の親密な関係が知られる。

【由利公正伝】〔由利と橋本が〕二人で話した。その時、五ヶ条の分別を書いて持って行った。〔中略〕第四には武術仕合に皆勤した者に褒美をやることは何にもならん、これは戦争の時に逃げる者に相違ない、そういう佞奸人<sup>ねいかん</sup>を出すようなことは止めるがよい。第五には、御役人を用いるのに家柄を選ばぬようにして、用に立つ者を挙げたらよい、今のところでは役に立たぬものばかりであるから、いくら明道館を建てても役に立たんと五ヶ条だ。すると橋本が笑い出して、人のいやがることばかり持って来た、これはヒドイと言って、笑話をして帰った。これが懇意に交を結んだ初めである。



松平春嶽肖像写真  
（福井市春嶽公記念文庫 当館蔵）



橋本左内肖像画  
（福井市春嶽公記念文庫 当館蔵）

**横井小楠（福井藩政治顧問）** 熊本藩士。安政5年（1858）春嶽によって福井藩に招かれ、明道館での人材育成や藩政改革を主導した。由利は小楠の考えに強い影響を受け、民富論すなわち「民富めば国富む」を実践し財政再建を成し遂げた。

【由利公正伝】〔同年12月、小楠の帰国に同行した際、小楠が〕酒を飲むから手配せよと言われる、それから講習が始まって夜半に達した。大阪に着くまで、毎夜同様のことでずいぶん疲れもしたが、その親切は誠にかたじけないことと感じて、今でも忘れられぬ。〔中略〕酒を始めると、天下第一の丹釀<sup>（※）</sup>である、三岡も一盃味わえと言われるから、飲んでみたら非常に旨いことで、初めて酒の味を知った。これまで国では酒を飲まず、自ら嫌いと言っていたが、これはうまいと言いついたら、先生、それは真の好きじゃと言われて、一同大笑であった。  
（※丹釀…伊丹産の日本酒）

**徳川慶喜（江戸幕府第15代将軍）** 一橋徳川家から将軍を継いだ。文久2年7月～元治元（1864）年3月にかけて将軍後見職として春嶽と共に幕政を主導し、攘夷を求める朝廷側との交渉に当たった。

【由利公正伝】〔文久3年正月、春嶽が由利に〕貴様は二条城を拝見したことがあるか、とお尋ねなさる、未だ拝見致しませんと申すと、見せてやるから予と一緒に来いと言われるので、何の気もなくだまされて、お後に付いて行くと、〔中略〕慶喜公のお出ました。老公始め御一同は程よき所に座ってお待ちになるが、余一人は行場がない、逃げることもできない、〔中略〕すると慶喜公のおっしゃるには、〔中略〕今薩長征伐をやるといのは心服できぬ、よろしくこれはお止めになるように心配するのがよいというので論が治まらなんだ趣だが、この場で委細に申せ、といわれる。サアどうも牢へでも打ち込まれるに相違ない。ソレならもう言えなくなるのじゃから言わねば損じゃと思うような気がしたから、いっそ皆申上げてくれようと思存して、一伍一什を述べ立てた。しかる所が、慶喜公おっとり刀でお起ちになった。サア首が飛ぶに違いないと思っていると、ドツカリお座りになって、よく申した安心せい、とおっしゃる。私は死ぬとおもっていたのだから、びっくりして、ありがとうございますとだけ申上げた。心からこの時は有り難かった。

**坂本龍馬（土佐藩出身・由利の盟友）** 土佐藩を脱藩後各藩の志士と交わり、薩長同盟成立の立役者となるなど活躍したが、王政復古を目前にした慶応3年（1867）11月15日、暗殺された。由利は11月1日に福井で坂本と会い、財政について語り合っている。

【由利公正伝】慶応三年十一月朔〔1日〕、坂本がまた福井に来た。〔中略〕煙草屋に入って龍馬と呼んだら、ヤー話すことが山ほどあるという、その顔を見ると直ちに天下の事成就と思われた。〔中略〕金札を発行せざれば今日天下の計画はできぬということもくわしく語り、当時自分は幽閉人なれば、飛び立つ如く思うても出京はならず、全く坂本に依頼したことだ。十三日夕、家老岡部豊後の別荘に招かれ、坂本の写真を懐中して行って、会見の始末を話し、夜半に川を渡って帰る時、懐中物を落とし、直ちに川を捜したけれど得ず、物前の遺失大いに気がかりとなり、京都の便りを待ったが、十五日に坂本の凶変が知れ、下山海福中田の三人を招き、ひそかに祭りをした。誠に千秋の遺憾である。



横井小楠肖像銅版画  
（福井市春嶽公記念文庫 当館蔵）



徳川慶喜肖像写真  
（福井市春嶽公記念文庫 当館蔵）



坂本龍馬肖像写真  
（国立国会図書館ホームページより）

### 【関連イベント】

- ・ギャラリートーク（担当学芸員による展示解説）  
5月8日（日）、6月4日（土）、25日（土）、7月10日（日） いずれも14時から（観覧券が必要です）
- ・まち歩きツアー「由利公正の足跡をたどる」  
6月12日（日） 9時～12時30分 参加無料 定員30名（5月30日より電話で受付、先着順）

次回の展示

企画展「小さきもの」

平成28年7月13日（水）～9月11日（日）

展示解説シート No.96

平成28年5月8日発行

福井市立郷土歴史博物館

〒910-0004 福井市宝永3丁目12-1

電話 (0776)21-0489 FAX(0776)21-1489

担当 田中伸卓

印刷 宮本印刷